国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

序

春の可論

春の海

草扇を用ひる方の俊才子ぐ古今のめ

作新案成校訂

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

招今朝を出日の遅速あるも
社中の為に迷惑に然まで怪しく思ひ
りあまりまさば着宮詣を
らまく在川の亭に恵蓮を引き出乃
作者 作者 俳寿頭
金龍人
江戸 為水寿水誌

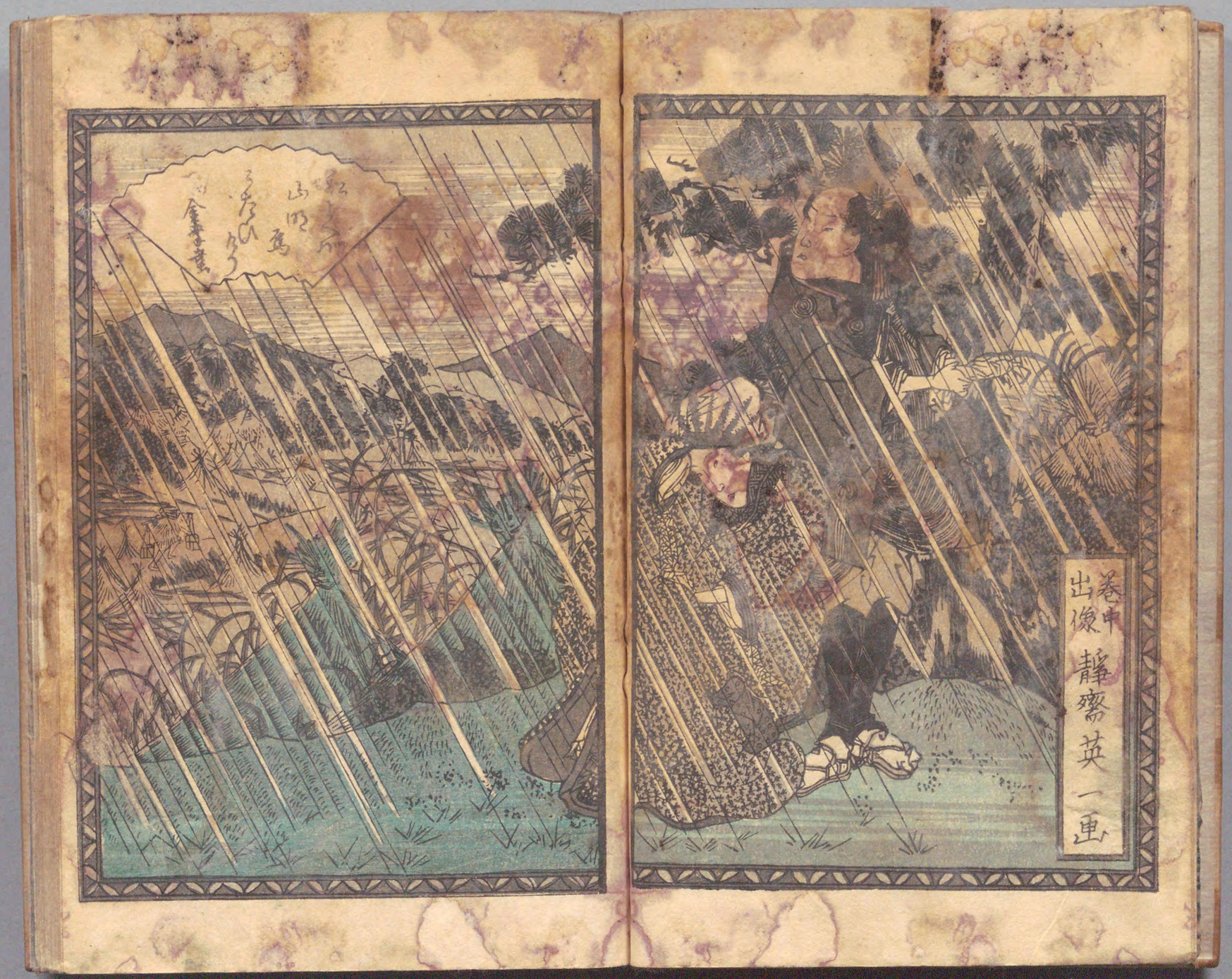
○為水の連まで牡丹
蝶の庭日まで初日出 春蝶
初日出梅むまいて元旦 春顔
金の雲初日に栄い 山ぶり 春里
雪の梅初日の出 義竹 津賀安
初日の出雲が茶屋を出 吉原 柳水
神詣して梅の実の 紙屋 水

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用



国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

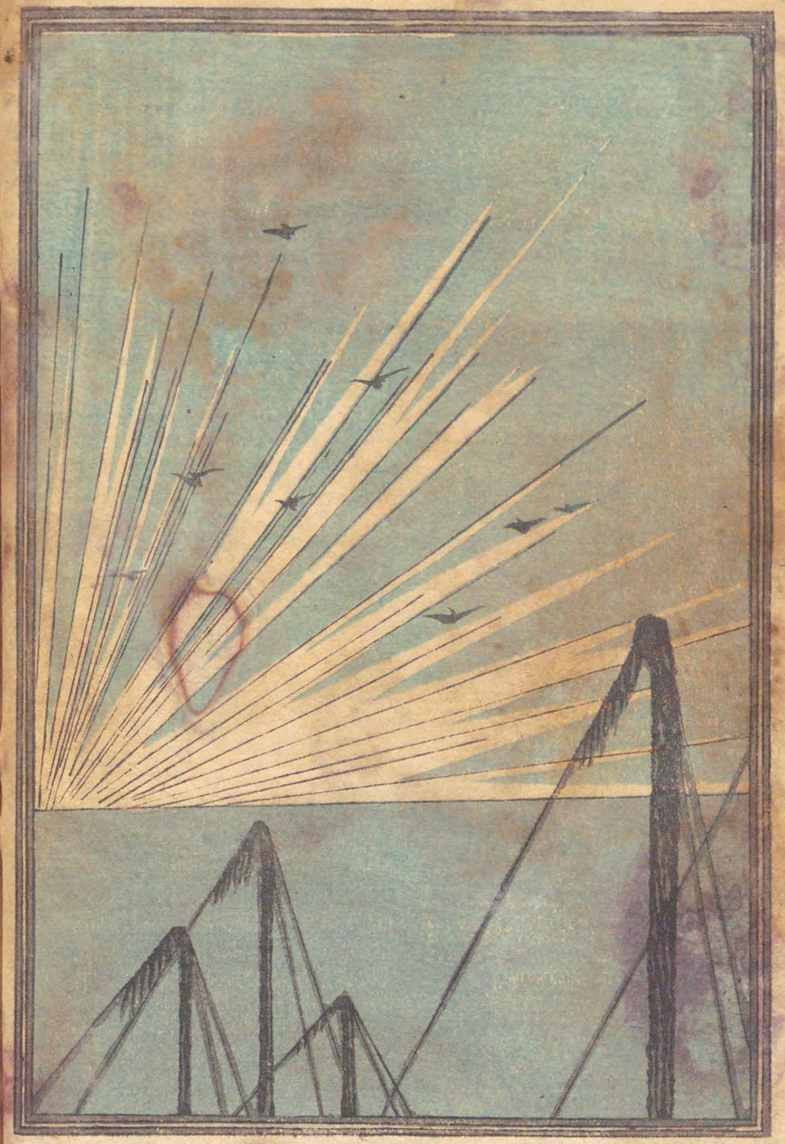
国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

春色初旭の出 上編

第七回

江戸 狂言亭春雅著



国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

門まうでに出かける付いでや清水るのハつの清ぼうくん
何清いもウハつうゑ八ゑ「アヽおバ丑刻サ」「呂ひの外猫
ゞ更ゑ更じゃア お八重さん客よ角でアゑよ山で暮れを
して加ゑるうゞ圓十郎とおさきねで今迄の猫よ勝浦
志ゑ行さるがらゝぜらづれ彩ゑ昭月の初つゑく来て来えさんの
胸も一緒い間てアんやせうかゝらお家ゑ滅丈いひてく事ゞ
あつてもマア彩よめんゞくれと彩ゝゞとれさるのゞぜ八重
「ナアニ北東い光さんの方でゑ来えばかゝだろふゝ彩ゑモウ

何人だかうが男じゃア彩ゝ呂ひ切ゝ志ゑよ方ゞ結句暮
う揺てよのヨト宵張くらゝゑ嬉ゝうきんよ志ゑ馬
をゞ橋ゑ渡して今い変間てゑ歩ゝき男の胸史とゝゞ
らふゝら彩ゞゑ呂ひ切ゝ面の色ゑ知て志ゑ彩ゝ彩の
風ふゑら向ゝ風情ゑう

有理情の濃い頼母ゝ紀中ゑ耶史ゑ成ゑて
揺ゝの渡揺ゑ両人の若旦い若ゝひゑ意楽
ゝひゑ意ゝるゝりゑゝよ彩ゝ彩ゝゑ鶴

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685
ガラス使用

賀の新内呉今様の人氣をけうして寿老人
のとぶめんてうもあれど酒のうまと濁れの業遠
あれが備後屋ふうして第ひねもとれん
時八重の枝折戸をはけちぶ「アノ」ちんさん今ら酒へ
氣くちん「ムハいづれ明日の朝でも来拍じやアねへ」八重
「アレサ明日の朝とらつてモウ今ふるもちく拍ぶはけ
い子大方酒もおしゝ来て有だろふら「トハ言を消て
マア今拍ハ私の間へ寝てお出なさいちん「イヤ丈じやア

何のもとらぬ人金「ヲヤちぶ〳〵ちん「ナニサ女世間で居る所へ
寄の拍を義人が来けぬ〳〵隣家の男くもよくまあ
と思つくくの変ザ八重「ヲヤマア面ぶいョお前の為ぶ仕ぶ
「ト拍も泊ると思つどふ〳〵幸防なる家ふ所とサ「ハイ
そのつい大きぶ八重「更たらを拍ぶ〳〵ひを来いで
泊て出とのふ変ザちん「モウそふ〳〵ぶられく来の来
アア寄ぶ〳〵雨ぶはぶらぬへら真老で一宿頼ふふ八重
「そふサ老のまらく人い年寄らく来ねへとんつくも

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

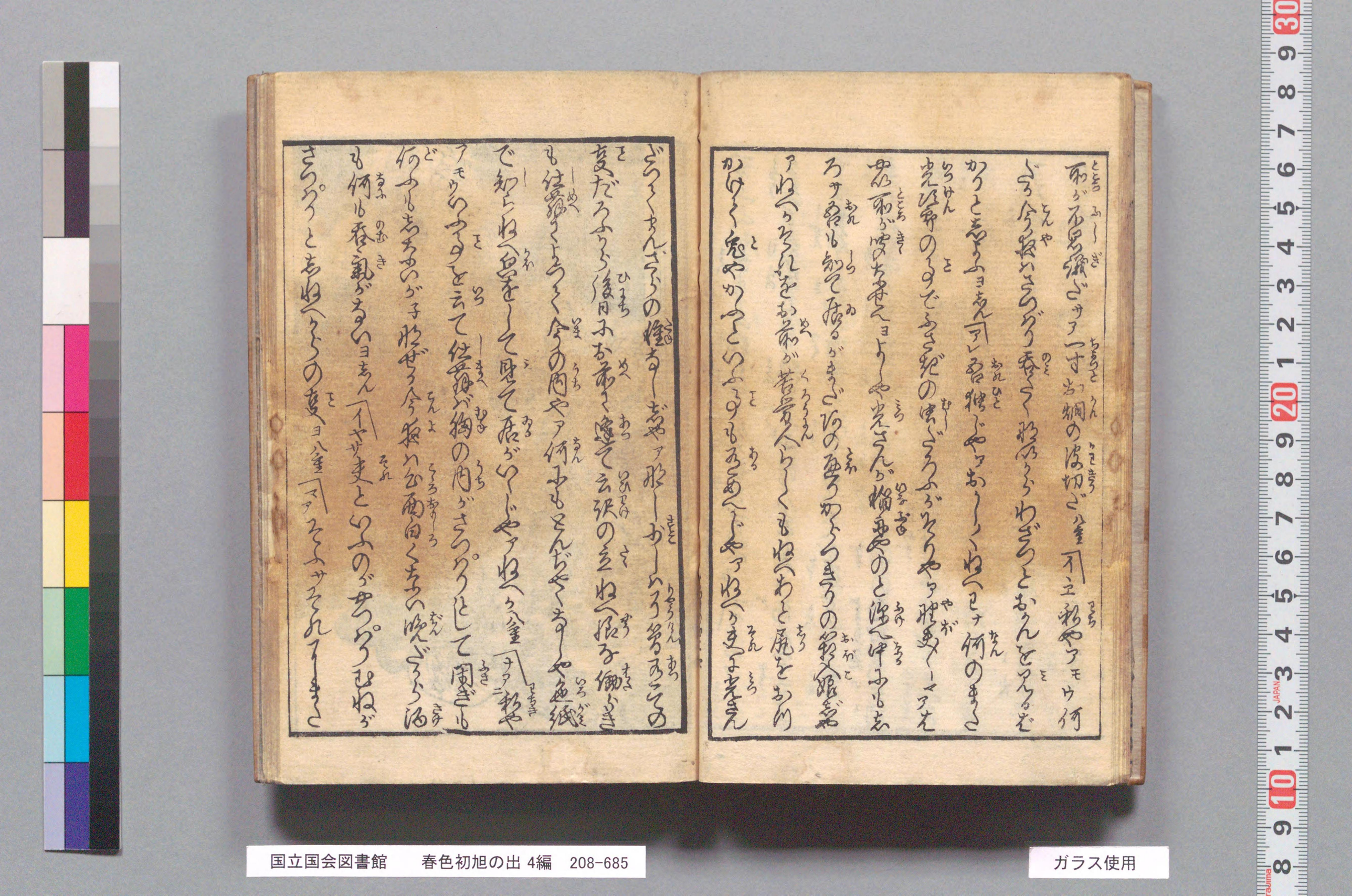
ガラス使用

わるいんごとト　おくさんもおくへ　アイそ道
おきて　ねまきにたぶあんもうおゆうぶ　生ちら　今番へ　揚よゆさ
ばうり　大そうよおを　間ふ　ふれます　ハ重　アヽ　早く　ゆうふ
と　ふつてぶッイ　ちく　ゆうと　あのてよんだり　サア　きんさんおあがり　ハ
ヲヽ　何ぶむ　暑い　ぶんく　雨戸を　ちゃ　ゆけて　ちゃ　ふト　戸
と　引ぱけ　極楽へ　蒲　こぶと　ぶるぶら　ハ重　アヽ　おくさん
酒を　ちて　色て　おくれぶろふ　子　ハイ　分　ゆうふ　お春
だろふと　ふつて　ふちゃんと　文　と　て　色　酒　ショ　ハ重

そふふく　おゆ　もう　猫　ふ　ぶが　おぶぶ　ねへ　きん　そりゃア　色だ
色　ふ　ふ　茶　ぶ　サ　粋　きん　ふ　法　ハ　色　りゃ　何　ん　ふ　ぶ
でも　自然と　氣の　附　ゆ　ふ　ハ　ショ　ヱ　ヘン　家　ち　く　朱
交　ち　れ　ぶ　ふく　ふ　盲　親　ふ　ぶ　ふく　ふ　の　乃　理　色　ゆ　何
ふ　八重　ヲ　ヽ　ヽ　ヽ　氣　ぶ　だ　の　ふ　ゆ　ふ　ぶ　法　の　ゆ　ぶ　ショ　ー　ふ　色
庭　の　婆　ア　ぶ　猫　色　の　猫　ハ　色　ふ　ハ　色　り　ゆ　ふ　何　ん　ふ　ぶ
ヲ　サ　ア　甚　易　り　ち　ん　ふ　ん　何　ふ　も　ち　ハ　ショ　ち　ん　ヲ　ヽ　サ　行　ぶ　ぶ　ば　色　ぶ
の　ふ　何　ぶ　ま　ふ　有　の　ふ　ぶ　ハ　ふ　く　ば　ば　ふ　ま　ふ　ハ　て　色

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用



国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

あの程度でまく外よ苦労な事が出来てまさらい
つて氣ぶの者くがが溢れへヨん「フ」変ぶやアお家も又先
きんを捨て別派の色出へう子金「アレサ、家樂をあいひで
ちがいて先きんを捨て外よ溢氣とさるくらいあくら今安の
拵お始末いおさら形ぶが子私のがでも行の仕振と十方
まくまて他の世ちぶ出来てまさらい「フ」てやアの沢
だう者ら知らぬ人ぶ者ぶ者のの者る所ーあらてて
擦とも使合ぶ物ぶらーにまくを出へで所ーてらる

あくら所ーてとが者せんまて「相後拵ふ拵あのんでも所ら
ナ金一マアお者の拵よてふ頼ぶしくらておくれざうら新
ーてもふ変ふいぶぶ何ぶうへふ所の生てもあんまうと
いへぶ智恵のたふるひだうサん「アレてふ擦とも使合の
者ぶナ変と者ふようちやうへは語てのうで又ら変
の知ぶもあうふーやこ拵へ金「アへてんあぶ私ふマアる
者の者ぶーを使拵ぶトまくマア関くおくれうぶ
ヨオン「ぶ使ふ悔ふの変ぶるふ変ふ者ふ私ふ所で使ふ

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

さハア三年あとからお色が来るく　もうちゃんさん　お家の
お新家で居らるア　坐さぬいヨちゃん　アレサ　お座敷ちゃアぬ人　極
の真老サ　八重　そんなあらくづまもうあさんと　嫁ばよちつく
三度とらつのんぐらら　長い月日のうちるあア　悪るい千里と
やうで　私と　芸者りくくまるる　且那の家へ　知まがびんと　成て
行ぬ　此ぢ　森ろうらくく　御ぢな　丈も　身の　毛ごと
ぬくりやア　仕方もちるぶさ　変るアア　人よ　形
きると　稲戸の　茂が　私の　勇と　行んるふさるかと　思つて　嫁

みま丈ぶ　若旦那　ふ　稲戸の　親丈と　八重　ナニサ　私の
ものうそ　の　親丈ぶ　様の　性質ぶ　ちサん　そりやアうそ
ばり　親者ア　仕方もぬ　ぶ　何ち　ら　且さの　寮げ　ちどり
ぬりぬ　八重　ア　丈も　先さんで　今までの　私よ　使りみて
くまりやア　甚私よ　言ものあ　ウあの　人も　ちく　みま
の　ぶく　ぶ　ホン　たよりぶく　ちの　身ま　ぶと　思ぶ　ぶ　ぶ
やうで　ちんさん　ぬ　ぷり　面白く　ちへ　ヨマア　私の　物も　汲ぶて
うんて　あくまと　なト　ちる　ちゃ　の　汚れで　汚ら　ぬく

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

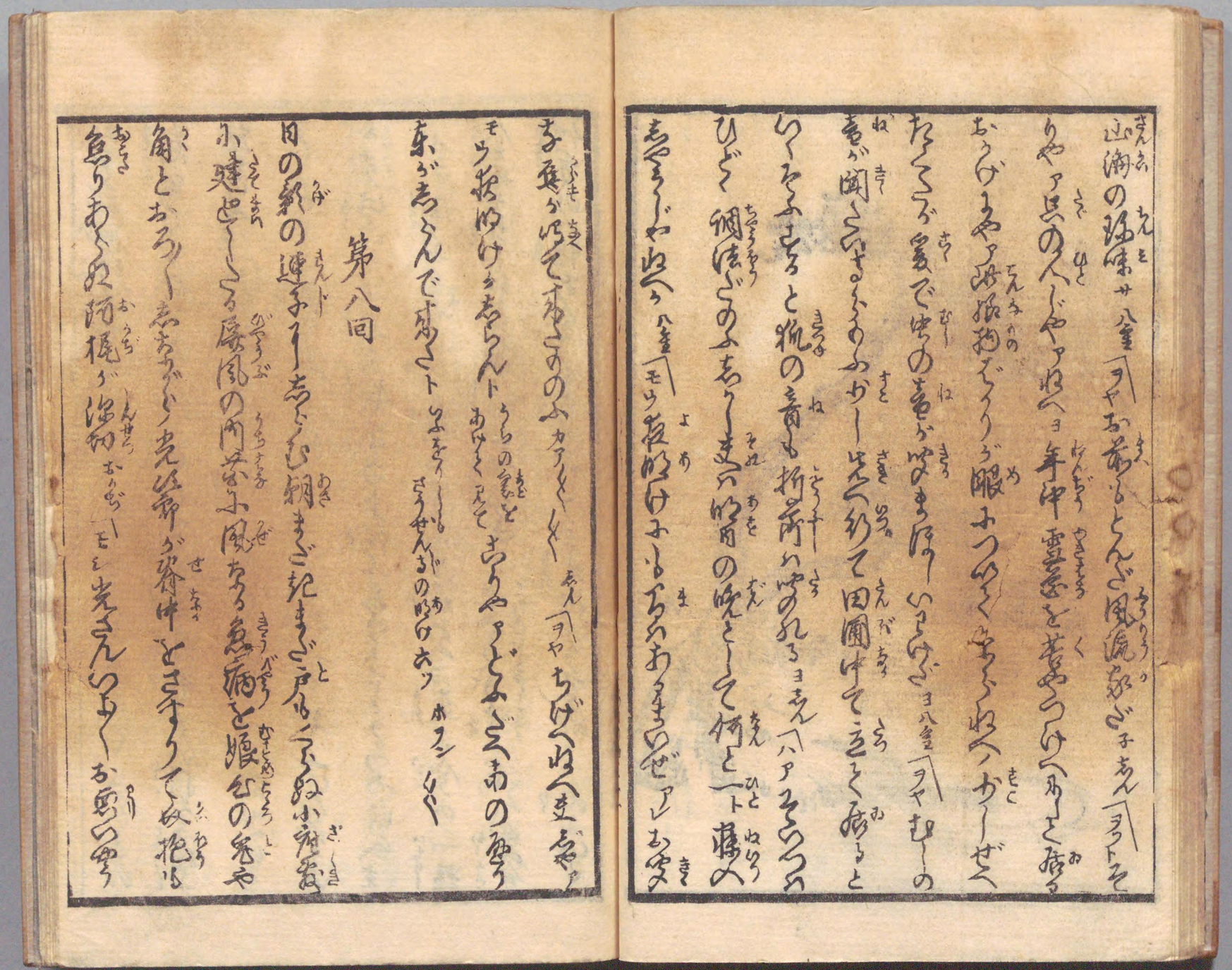
ガラス使用

新も深まるにつれて女氣の見ひさしく紅潮す菊の手の
軟弱も心かろうとて色姿もちくいさめ蕾てさてさてのの
ちん馬ら猪の色と　ハ　紅沢と聞くやアお前も氣ぶ
きをやつ育めくぶ赤〳〵岩さんの方ばかりあれ〳〵きのと
を氣もさへ〳〵モウ行〳〵ふうばかりお前と色相を
はつさと心でもあきめへうそそ家を落とそやアあうぶぬへ
ナアニ　何ても岩さんい外よ長と附ふやうお家ぢやアモウ
私の方い胸があがりこのサちん　吏ぶまぶお前も粋てぬへ

商売の客とふもの有ふう男の抓食いありやア世間
らうこのぶ岩さん来アかぶ〳〵ぬへ来ぶそそこれおめへが
絢でくらく何ふも家とのひ程ふいぬへまるマア何ヨ
ル客ふまもして今夜の車ぶぶ〳〵ぶ〳〵男ぬへでマア蕾芳
い酒でまぶ〳〵ぶ〳〵甚間よ長ぶぬへりやア一寸客も来
かうと新ぶアまんぶ〳〵浜田様ふも吉原じやアぬへうサア
喜つのうでお面ぬく客でうそそぶ〳〵ぶ〳〵すけんぶるヨ　八重
ヨヤ　新ぶ人ぶ抓ぶやアめんとふぶ〳〵ふ〳〵客〳〵とうしてお

くれるあさ「さてさてあつよ淑くあらぞ大物で春ちんぞ
ゆどうとよーだ「八重ちゃ」ふ兄とお亀お上ぜん「イヤ
ハヤ預つてうけつてうョ八重「サア支じやつ春ちんあぎるぜト
急とも法ゑど春子てちん馬ぶ亀へさ〜出せびちん「兄い
お長藤びつてぐけ根拘でなちつる日まやア猫付いきつく
ぶひさをうみいやとも〜ら〜まめ八重「アサ青ぶちへら亀
根ふあ〜ョちん「何のさつあぶへるものら歩盗清しの中へ
月の新ぶちら〜とさと取とえんちぐら春び兄ぶ何ろう

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685
ガラス使用



山海の珍味サ八重ヨヤお菜ゴとんぢ風流新ぢ子ちん〳〵ヨウトそ
りやア呉の人ぢやアねへヨ年中雲霧を著つけへ乃ゴと存る
おうげつやア浅草ぢ新ぢ新ぢ眼ゴつめくちぶんへかーぜく
たてぢ蚤でゆの者ぶゆもゆ〳〵いらひぢヨ八重ヨヤむーの
者が聞こひさるふかーしたへ約て田圃ゲて立こ存ると
ひくをふちと瓶の者も折所ゆれるヨ元〳〵ハアそつふ
ひぢく 鋼法ぢのふちうまの時の咲こて何と一ト寝へ
ちうぢ中ぢ八重〳〵モウ長ゆけみるちゆあるまのぜアレ存

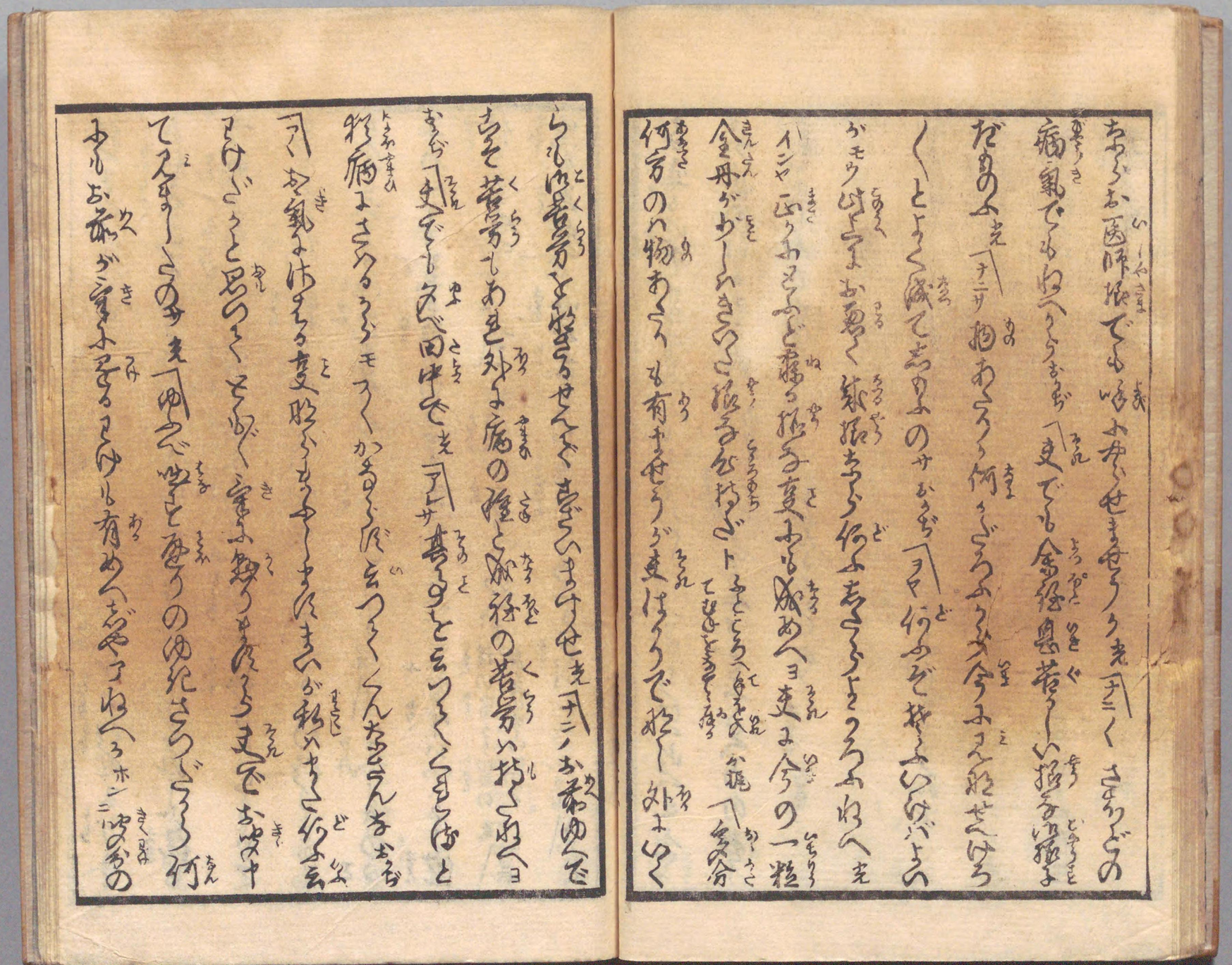
ま乗が咲て存さのふカアく〳〵ヨヤちげへねへ支ア
モウ長ゆけ〻ちらんトちらの気と存ちやアどふぢ者の乗う
東ぢちらんで存さトふちうーるさんぢの時ゆ存ソ ホラン〳〵

第八回

日の紙の連ゴ子ちうむ朝まぢ記まぢ戸ゆて約小新聞
小建ぢーる厚風の間茶ふ風ちる急病を娘ゆの発や
角とおろ〳〵ちちうぢ光仏帝ゴ衆中とさ手ちうて板ゆ
鳥りあるゆ阿様ゴ海初おうぢ〳〵モミ光さんのよ〳〵お寝の乗う

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用



ちゃうお医師様でも時々お出せまをうう先チニく さまうどの
病氣でもわへうまぐ 丈でも金程恩若うしい拾ふ拾よ
だのよ先 ナニサ 拾あろう何ぐろふ今ふ之拾せけろ
くとよく減て志のよのサかぐ ヲヤ何ぞ拾ふいけばよの
がモウ時よよ お惡く 紙拾ちろ何ふ志ろふ拾へ先
イシヤ 正ろ拾ふ変ふ拾る拾る変ふ拾へヨ丈ふ今の一粒
金丹がおーんきろふ拾る拾ぐト ふ拾 丈の分
何方のハ物あろう有ま世ろう丈ぱろうでおー 外よいく

らも出吾方と拾ろ せんぐ志ぐ拾ろ せ先 チニノお拾ゆで
志そ若方もあ吾外よ病の種と拾拾の若方い拾ろ拾へヨ
おぐ 丈でも丈ぐ田中で先 アニサ若ろ吾と志ろくくまろ拾と
拾病よさろうぐモろくかるぐ志ぐ志ろくくんちろんおぐ
アヘお氣よ拾ろ変拾ろ志ろ拾ま拾が拾ハ拾ろ拾ふ云
ろけぐろと思ろく志ろ拾ぐ志ぐ拾ふ拾ろ丈でおゆ中
て先ま志ろの先 先 拾ゆぐ拾ま吾ろのゆ拾ろ拾ぐろ何
ゆりお拾が変ふ拾ろ拾ゆ拾ろ育ゆへぐゆ了ゆへろホン 拾ゆ拾の

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

ちゃうんおぢ「たゆうさま」あがりばなをもむ夏ちゃうてふたな
さいまーるゑ又法師をわざわざ法師はるるおぼくぼ奴隷ごとうけま
せんぐぐ井「脇紙」をもそこでのおーー口振り建ぬく居ちゃア
法家で牧公ばかりよくねーーー雨戸をぬけく庭の事色でル
「ハイ」せーーーーまわーーーおーーー「ハイ」おさんふてまーーーく明けませ
せうーーさんとする和へ折よくも下女が紙間を押明けて「ア」先
法家さんへ何方ふおーー御眼ふかーーーー

紙ゴを建て〳〵何方へ行かれもせずに居る所へ別人ちらと来て
けんそう亭ちん馬吏とゐたりとゐ考へ筆ハイヤ是をけ〳〵りかくざ
ぶ大人の客来サア〳〵はゐ〳〵ゐ本のごとしちん呉今お服えと
いふんぐ子光ハ十三サ何やらゆゑ〳〵ゐ家令が悪ひゐるゐイ家ゐ
ゐてゐ〳〵て居るのサちん呉ハア奴人の呉ひでゐ子光ハマア其近ゐ
しゐノちん呉ハ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵おゐ〳〵も其ゐ〳〵れへおりゐけりやア家人のわ
ゐ〳〵ゐてゐ居ゐ居ゐ食ゐやア出ゐゐゐゐ〳〵子時よ考ちん待内家さ
ゐすお東府をゐ呉ハ出内家ゐ〳〵ゐやゐ家ゐ〳〵ゐけ〳〵ムカフお根さん

ゐ方が馬ゐのちん馬さんとゐ方が馬ゐ者だゐゐ又おゐ初ゐおゐ
きて居ゐ出ゐのきゐ預ひやゐちん呉ハヨにゐ〳〵アハ〳〳〳

「フット落ちそのくまふか婦野ハ[illegible]物花見や花見く
とふ不滑稽ハどうぞ子先「アハハハさぞうけやーたぞう」先
さん何ぞう晴いやうぐらう雨戸をはけさせまいぬへ先「いうん
甚るサ子おうぐ「走じやアたぶの[illegible]ト次の間へ[illegible]
先「モシいうもう英婦人ざまあるじやアお八重坊の角も[illegible]
とふ思うまいぬへ先「うちうぐ家族のてうくくい先「マアこ
婦幾度の陸枝ぶだ[illegible]あのまー拾ちやアもけまと
めんぜ先「うち松ぐらゆうぐの祝儀ハあんまうとうぐ粋でぬへ

佐うちぐうくモウ〜あれが洞ほうれョ先「一チ狂物の同者者
アあ有めー〜ぶうそふも滅ぶとめへ走じやア中ふまさ法方どうが
つまうらわへうマア一度ない私の負も[illegible]先「ヲット其一懐いひう
ふも策新サアノ女ふ来藝ハかーも紙へが先見ト〜の建「だ
かうぶ愛い一寸間も仕振が其易り滅ぶ[illegible]ョ
先「そふいい何ふもお兼さんのお兼易り形ぶ[illegible]ば一方も紙へ
がゆうぐとうくうと河八重の絵も[illegible]又狂を
聞ハ[illegible]犯も[illegible]へ佐うちサ先一[illegible]の[illegible]へ佐うちなるぶ

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

有めの女い実の面ぐあふ
ちくやまよと
三国山若宮あい実の猫行うん何と実らぶあらぐそ情乳
の情合じやアねくらん「アレそりやア嵐を変サ今面白い女
ルちうとぢくとかんくやくのあ張さ数し方ぶらくちやア
ぶざうやせんう光「そふサ実い付方も兵胴ぐ何ぶどつも
よいひかうて又実の面あうくん張とかくくうをおけば
ん「まるぶのちでもお恥いのう子光「イヤ何でもゆぐうう
ちびくのさくぶでト国くそ「成行息よん「そりやアお

ちまん格ちうさめんぐ子ぶくお後でも撰ませうう光「ナラく
ぶのき痛ん兵法くもねへぐ何ぐう身門ぐぐくくしてアイタ
くく「アイ見い赤うモルくぐるくぐおぶちきひません
ト通まてお橋い次の間ぐう「イ又ぎんぶ面い張ぐ
ぐぐいまたうん「風張サぐどつも沼振子ぶうのい張ぐのう
何でお業でも有またくうん光「ナニサ今ぶ法ぶドやア
ちまくぶつう格業を春ぐ有ぶとてうきねへうう山まく
そうう底そくんねへ

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

208
12
685

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685
ガラス使用

208
特別
12
685

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編　208-685

ガラス使用